

君が君であるための学校

不登校の小中学生が全国で十二万人と高止まりする中、北陸のフリースクールで新たな動きが出てきた。元小学校教員の佐々木健治さん(左)も「学校に戻っても、戻らなくてもいい」と、子ども一人一人に応じた学習や体験ができる施設を金沢市内で開設。中高生や就労に向けた支援を受ける若者が通っている「ワンネススクール」は四月から小学生の支援を始めた。(押川恵理子)

金沢・元教員がフリースクール

仲間と佐々木健治さん(左)と一緒に設立したリユフトと今後の計画を話し合う金沢市山の上町で

金沢市山の上町に立つ「LYHY TY(リユフト)スクール」。リユフトはフィンランド語で灯籠。佐々木さんが仲間と昨年から始めた。希望の灯をやさしく包む決意を込めた。開校は平日午前十時～午後四時。小学生から高校生までの十人が通う。木造住宅を改修した校舎には、くつろげる「森の図書館」



登山、農業体験…時間割は子と一緒に

フリースクール 個人や団体が運営する多様な教育施設。不登校の子どもの受け皿となっている。要件を満たせば、学んだ日数が籍を置く学校の出席扱いになる。文部科学省の調査では、4200人の小中学生が通う。NPO法人フリースクール全国ネットワークによると、全国に400～500カ所。月謝は2、3万～5、6万円程度で、約100の加盟団体の6割強が月謝の減免制度を持つ。小規模な施設が多く、経営の安定が課題。

や映画を見る「想像の海」などの部屋がある。室内でゆっくり過ごしたり、登山や農業などを体験したり。時間割は子どもと一緒に作る。学習状況は籍を置く学校に伝える。「まずは自分らしく過ごしてほしいと願う親が多い」

教育を志したきっかけは、自身の体験にある。小学五年生の時に両親が離婚。二人いる姉の一人は非行に走り、もう一人は不登校に。自らもさみしさや社会へのいら立ちを抱え、小学生の頃にはテスト用紙を破るなど問題行動も。自分のような子どもたちに寄り添いたいと教員になったが、残業続きで十分に触れ合えず、昨年三月に退職した。

若手教員や児童相談所職員向けの研修なども企画し、さまざまな専門職の「横のつながり」で子どもを支えることも目指す。「教育は大人みんなで行つもの。子どもにしっかり目を配れる社会にしたい」と願う。